



1月号

さやまだい

平成31年
2019年1月



さやちゃん

公民館・地区センターだより

まーくん

狭山台児童館
共催事業
デイキャンプ!

狭山の味覚を楽しもう

里芋堀り&クッキングを楽しむ

11月14日(水)9:00、狭山台児童館の男女13名の児童と2名の先生が、バスに乗り智光山公園近くの長野県人会が運営する共同農園に、里芋堀りに行きました。農園会長の樋口弘さんがスコップで里芋を掘り起こし、参加した児童が土を落としながら、親芋から子芋をもぎ取りました。▼1人2個の里芋を狭山台公民館の調理準備のため、児童館の先生が車で先に届け、残りの里芋はビニール袋に入れて自宅に持ち帰りました。



土にまみれて里芋堀りをする光景



土田先生が調理方法を教えています

11:00から土田丹智子先生が、里芋を使用した「里芋のチーズ焼き」「フワトロ・オムライス」「マシヨマロ・デコ・サンド」の調理方法を説明し、児童は4グループに分かれて調理をしました。▼おそらく一般の家庭では思いつかない調理を、小学生が失敗を恐れず活発に調理をする姿は、笑い声にあふれ、実に楽しそうでした。



調理に挑戦している児童達



里芋の調理メニューで昼食会開催

12時半頃から、公民館の2階和室で、でき上がった3種類のおいしい里芋の調理メニューと、持参したお茶で昼食会を開催しました。▼土田先生から、日本、西洋、中国などの食器や箸の持ち方の伝統・マナーの違いなどについて説明があり、小学生は食文化の違いに驚いていました。(村上記者)



狭山台地域づくりをすすめる会 狭山台地区まちづくり推進事業

小学生と共に狂言を学ぶ会



12月5日(水)狭山台小体育館で大蔵流狂言山本会の若手を招いて狂言の会が行われました。この催しは狭山台地域づくりをすすめる会主催で開催されました▼演目は、6年生の教科書に載っている狂言「柿山伏」を狭山市在住の若手の狂言師が皆さんへ披露しました▼正面の舞台に大きな松の絵を張ると、もうそこは立派な狂言の舞台です。内容は、狂言師がお腹を空かせた山伏になり、必至に柿の実を取ろうとするさまを面白おかしく演じました。そのあと子供たちも狂言の所作を実演体験していきます。



山伏は柿の木に登って実を取ろうとして見つかり、鳥になったり猿になったり



鳥の真似をして怪我をして地主に助けられることに



「おいっおいっおいっ」と泣く演技! 子供の実演体験も感情込めて真にせまります。

すり足で歩く、走る、立つ、座る、泣く、笑う等、狂言独特の所作を熱心に習いました。たくさんの子供がこの狂言の集いに参加することで興味を強くもち、次々と質問がなげかけられました。来場者の感想「初めて観ました。すごく良かった。来て良かった」「狭山市にご縁のある狂言師なのでもっといっぱい観に来てほしい」

(牧野記者)